

焦らず情報収集を

勤務先: 徳島赤十字病院
医療ソーシャルワーカー
(社会福祉士)
(平成26年3月 歯学部
口腔保健学科 卒業)

井内 美沙 (いうちみさ)



私が就職活動について意識し始めたのは、3年生の12月でした。口腔保健学科は歯科衛生士・社会福祉士の資格を取得できるため、様々な選択肢があり、どの方

面に進んでいいのか悩んでいました。そこで、合同企業説明会に参加したり、歯科衛生士のアルバイトをしたりと、自分のやりたいことをずっと模索していました。その中でずっと私の一貫して求めていることは、絶対徳島県内で就職したいということでした。しかし、自分は何になりたいのかわからないまま4年生になってしまいました。そんなときに、現就職先の採用募集がでたので受けてみようと思いを応募してみました。就職試験を受けるにあたり、赤十字の活動やその歴史、病院の特色、高度急性期病院における社会福祉士の役割について調べているうちに、魅力を感じるとともに絶対ここで働きたい!と思うようになりました。しかし初めての就職活動で、時

間も迫っている上に、何をしようかわからず焦りもありました。そこで先生を始め、友人や先輩から情報収集を行い、就職活動支援センターに通い履歴書の書き方や面接技法を学びました。併行して社会福祉士と歯科衛生士の国家試験の勉強も行っていました。辛いこともたくさんあり、時間も限られていたため大変でしたが、密に計画を練っていたことで採用試験時には自信を持って臨むことができました。就職して1年経過しましたが、教科書に載っている困難事例以上の背景を持った患者様があり、一人ひとり全く違います。葛藤や悩むことも多々ありますが、経験豊富な先輩方や頼りになる病院スタッフに囲まれて日々奮闘しています。勉強の毎日ですが、その分

「好きなこと」から「仕事」へ

勤務先: 徳島バス株式会社事務員
(平成27年3月 総合科学部
社会創生学科卒業)

佐藤 潤也 (さとうじゅんや)



僕は幼少期からずっと、バスが好きでした。特に、多くの人を乗せて実家の近くを毎日走っている路線バスをとて魅力的に思っていました。このことがきっかけで、

僕は小学生の時から「バス会社で働く」という目標を持っていました。高校卒業時この目標は変わらないまま、大阪の実家を離れ徳島大学に進学しました。社会人になると時間が縛られ遠出しにくいと聞いていたので、長期休暇は日本各地を旅しました。旅を重ねるうちに、だんだん地方都市の居心地の良さを感じるようになりました。僕にとって地方都市は、高校を卒業するまで住んでいた大阪とは違い、程よい距離に自然があることで適度にリラックスができる環境でした。また、日本各地の路線バスを自分の目で確かめていくうちに、地域住民のための路線バスをこれからも存続させていきたいと強く思うようになりました。この経験から、僕の目標は「地方都市のバス会社で働く」と絞られました。

3年次からのゼミ選択の時に、地理学を専攻することに決めました。その理由は、交通地理学という分野を通して、地方都市の路線バスについて研究したいと思ったからです。バスの研究は、法律の話が大前提にあるため、理解するのに苦労する部分もありましたが、現状の路線バスの課題を整理する大きな手掛かりとなりました。3年後期となり、いよいよ就職活動がスタートしました。僕は目標を達成するために、西日本の地方都市のバス会社に限定して就職活動を行いました。しかし、やはり地元出身者の採用が優先されるためか、最終面接まで進むものの内定をいただけなかったことが多くありました。4年生の秋になってはまだ、内定した企業が一つもない状況でした。この時ふと立ち返

り、それまでの就職活動を通して感じたことを書き出したとき、最初に出てきたのは「徳島が一番落ち着く」という一文でした。ここから僕の目標は「徳島のバス会社で働く」に変わり、卒業論文でもお世話になっていた徳島のバス会社に、採用試験を受けさせてください、と交渉しました。その結果、試験を受けさせてくださり、無事に内定をいただきました。これで、僕の就職活動が終了しました。現在は、学生時代の研究で得た知識を活かしながら、自治体委託路線にかかわる業務を中心に取り組んでいます。自分が好きなことを仕事にするのは勇気がいることですが、僕は今の仕事がすごく楽しいです。皆さんも、好きなことを仕事にすることを、一度考えてみることをお勧めします。

就職活動記